

一年間のふりかえり		筑穂保育所 令和8年3月
1	運営管理	職員会議で連携を密に行い、飯塚市の保育理念、保育方針、保育目標を達成するように努めました。職員の資質・保育の質の向上を目指し、参集型やリモートで研修会に参加するなど、専門性を高める努力を行いました。
2	守秘義務	保護者や子どものプライバシーの保護、保育業務で知り得た情報や個人情報などの守秘義務について全職員に周知・徹底を行いました。
3	安全 危機管理	常に危機管理意識を持って、施設や遊具の点検・防災訓練・不審者訓練等を実施し事故がないように努めました。 0歳児は午睡時の体の向きや体動をセンサーと保育士とのダブルチェックで確認、記録しました。今年度も、警察署の指導の下、交通安全教室や不審者対応訓練を実施し。職員の危機管理意識を高め、安全な保育を行いました。 4月に発生した賞味期限切れ牛乳の提供後は、子どもたちが口にする物全てに賞味期限を調理員と保育士とのダブルチェックで確認することを全職員に徹底し、牛乳在庫管理表に残数や検査簿に賞味期限を記入するなど、再発防止に努めました。
4	保育環境	園内外の清掃を心がけ、子どもたちが健やかに生活できるように、環境を整えました。子どもたちが主体的に、好きな遊びを十分に楽しめるよう玩具を整備し、温度、湿度、換気、採光等の環境を適切な状態に保持しました。 PM2.5等の大気汚染や暑さ指数に注意するなど、年間を通して施設内外の保健的環境や、安全の確保に努めました。
5	健康 衛生管理	手洗いや消毒、換気などをこまめに行い、感染症の流行を防ぐように努めました。感染症発症時は各クラス前に掲示し、保護者に周知していましたが、保護者より保育所全体の感染状況も知りたいというご意見をいただきましたので、1月より事務室前に掲示し、周知しています。 園医による内科検診、歯科検診、尿検査を年に2回実施し、子どもたちの健康管理に努めました。コードモニアアプリを活用し、登降園打刻を行うことで、安全・危機管理体制の向上につなげました。職員は自己の健康管理の徹底に努めました。
6	保育内容	「人権保育」に重点を置き一人一人を大切にしながら、発達段階に応じた保育実践をしました。子どもたちが自分で遊びを選び、安心感を持って活動できるように保育を行いました。
7	食育	食べることの楽しさ、食べ物と身体との関係や食事のマナーについて各年齢に応じた方法で知らせていきました。 菜園活動を通して、食材への関心や、食べる意欲を育てました。
8	子育て支援	送迎時に子どもたちの様子を伝えるなどして保護者との対話を大切にしました。月に1回公開保育を実施し、ご家庭で育児をされているお子さんと、園児との交流を行いました。家庭における子育ての悩みを共有し、育児相談やケースに応じた援助を行い、子育てにかかわる情報を提供しました。
9	地域交流	3月にある筑穂交流センターまつりには、5歳児が参加する予定です。 中学生の保育体験を受け入れる予定でしたが、インフルエンザ感染児が増加し、中止となりました。
10	苦情報告	いろいろなお意見、ご要望がありましたが、その都度真摯に受け止め、保育課にも報告・相談を行い、対応を行いました。 職員会議を行い、全職員へ周知し解決のための取り組み、改善を行いました。第三者委員会に行くような相談はありませんでした。
外部評価		
<p>【中心ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の声を受けた情報公開の改善や、苦情への真摯な対応も評価される。今後は危機管理意識を職員に定着させると共に保育支援事業の取り組みを基盤とし、教育の質の一層の向上が望まれる。 <p>【子どもの発達援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育環境を整え子どもの主体性を育てる保育に取り組んでいる事は評価できるが、視覚カードの統一や提示方法に改善点がみられた。 ・感覚統合リトミック等の実践により、身体への意識やルールの理解が深まり、最後まで取り組む意欲の向上が見られる。一方体感の弱さや集団生活に馴染みにくい子どもに対しては、個別の特性に応じたスモールステップでの支援が継続されている。 <p>【子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開保育等で育児相談や援助を行っている点は大いに評価できる。今後も地域に開かれた保育所を目指してほしい。 <p>【安全・事故防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全危機管理において事故発生後のすみやかな対応、園職員でのダブルチェックの実施など改善された点は大いに評価できる。今後もチェック体制などを強化してほしい。 <p>※感覚統合リトミック</p> <p>子ども達が自分の体を知り、思い通りに動かすことができるようになることで、普段の生活や遊びにおいて十分に自分の能力を発揮することができることを目的に取り組んでいる運動遊び。</p> <p style="text-align: center;">第三者委員(松岡えりこ・田辺妙子)</p>		